

白山ふるさと文学賞

第十四回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁鳥敏部門】〈作文「母へのおもい」または「家族へのおもい」〉

小学生5・6年の部 優秀賞

「ぼくの小さな弟」

石川小学校五年

和田
わ
だ

歩生
あ
おい

ぼくには、一才の弟がいます。名前は大きいに生きると書いて、たおと読みます。なんでこの名前にしたかというと、大生は5月に生まれる予定だったのですが、お母さんの体の都合で、約4か月早く生まれてしまつたので、生まれた時の体重は636グラムと、とても小さかつたので、すくすくと大きくたくましく生きてほしいと言う意味でつけられました。

大生はとても早く生まれてしまつたので、体が未じゅくでこきゅうもうまくできなかつたため、たくさんの中につながれて保育器に入り、石川県立中央病院のNICUに入院しました。お母さんは大生が生まれた時に、ちゃんと泣いてくれてよかつたと安心したと言つていました。逆に、手術室外で待つてお父さんは、大生を初めて見た時思つたより小さくてショックを受けたそうです。ぼくは小学生なので面会できないため、たい院するまで一度も会えませんでした。

大生は生まれ持つた病気はないと言われましたが、早産だったのでもう出血やこきゅう、消化器官などに問題が出る可能性があり、また、後いしょが出来る可能性もあると説明がありました。生まれて三日間が一番あぶないと言わされたので、お父さんとお母さんは三日間心配でねられなかつたそうです。その三日のうちに、のう内出血をおこしたけれど、一週間でほぼわからないくらいまでよくなりました。こきゅうはこきゅう器が必要だけど、安定していく、消化器官も問題なく自力ではいせつもできたそうです。ひん血もあつたので、ゆ血もしたりと生まれて一週間は、一番大変だつたとお母さんは言つていました。そのころ写真を見せてもらつたのですが、今にも骨が折れそろなくらいガリガリで、行きていけるか心配になるほどでした。

2月の末には、順調に成長してどんどん手や足についていた管もはずれて、こきゅうも安定して、少しずつ保育器から出してだっこできるようになりました。

しかし3月に入つて、未じゅく児もうまくしょうのしょう状の進行

がとても速いとしんだんされ、このままでは目が見えなくなつてしまふので眼球に注しゃをうつ手術をしました。ですがこのちりよう法が未じゅく児もうまくしょうに使われるようになつたのが、数年前からだつたので、しょう例が少なくしょう来的にどうなるかわからないと、説明されました。

3月末にはこきゅう器を少しづつははずす練習を始めていき、4月にはおふろに入れられるようになつたり、口からミルクをのむ練習も始まりました。

体重も2kgをこえて、5月に入りNICUから、GCUと言う回復室にい動になり、ほんどこきゅう器をはずすようになり、お母さんが積極的にお世話をするようになり、たい院にむけて準備をしていました。そして、6月1日ついにたい院できました。

入院中ぼくたちは、毎週末面会に行き、お母さんは、平日も毎日面会に行き、大生に何かあつた時のために、いつでもでかけられるようにしていました。病院が遠いので、毎週かようのが大変でした。ぼくは入院中、一度も大生にあつたことがないので、たい院の日あつた時に、とつてもかわいいと思い、ぶじたい院できたことにほつとしました。

大生が入院していた5か月間は毎日とても長く感じていたけれど、たい院してからもちゃんと生きていいけるのか心配でしたが、たい院してから今までの時間は、大生がとてもかわいくてあつといふ間に感じられました。

大生は今では、保育器に入つて入院していたとは思えないくらいとても元気です。歩くのが好きで、イオンモールの長い道をスタスタと歩ききつてしまふし、ご飯を食べるのが好きで、顔中米だらけになりながら食べたり、お店で階だんやエスカレーターを見かけると、何回ものぼつたり、タオルのタグが大好きで、にぎりしめてねたりと、とてもかわいいです。でも、ぼくの持つている物を何でもほしがるので、

ゲーム中や宿題中や読書中などの時は、ちょっとこまります。でもかわいいです。

早産児は発育や発達のおくれや、発達しそう害のリスクが高いと言われています。大生の病院の先生に今のところいじょうはないと言われていますが、こん後こういつたしょう害がでてくる可能性があります。でもぼくは大生が大好きでとても大切なので、どんなしょう害がでても、大切にしていきます。

この間初めて大生のけんしんについていった時にいろいろなしそう害のある人を見てびっくりしてしまいました。でも大生がこうなつていたかもしれないし、自分もじこなどでしそう害をもつ可能性もあると思うと、これからは、差別せずにふつうにせつしていけたらしいなどと思いました。

